第２章　1992年度普及・研究・資料整理活動

1　資料整理

本年度は次の６件の発掘調査の資料整理を行った。

①　鹿田遺跡第５次調査（医学部及び同付属病院管理棟）
　報告書刊行

②　津島岡大遺跡第５次調査（自然科学研究科棟）
　出土遺物の復元，実測，トレース，出土種子の採集，分類

③　津島岡大遺跡第６次調査（工学部生物応用工学科棟）
　出土遺物の復元，実測，遺構のトレース，出土種子類の採集，分類

④　津島岡大遺跡第７次調査（工学部情報工学科棟）
　出土遺物の復元，実測，遺構のトレース，出土種子類の採集，分類

⑤　鹿田遺跡第６次調査（ＲＩ総合センター）
　遺物の洗浄，注記

⑥　津島岡大遺跡第８次調査（遺伝子実験施設，合併処理槽）
　遺物の洗浄

2　分析依頼

①　石器石材の岩石種同定…岡山大学理学部講師　鈴木茂之
　津島岡大遺跡第５次調査：縄文時代後期の石器群

②　出土種子の同定…岡山大学農学部助教授　沖陽子
　津島岡大遺跡第５次調査：縄文時代晩期の貯蔵穴

③　縄文土器のプラントオパール分析…宮崎大学農学部教授　藤原宏志
　津島岡大遺跡第５次調査：縄文時代後期の土器

④　縄文土器の粒度分析…㈶山梨文化財研究所　河西学
　津島岡大遺跡第５次調査：縄文時代後期の土器

⑤　出土種子の同定…大阪千代田短期大学教授　粉川昭平
　津島岡大遺跡第６次調査：縄文時代後期貯蔵穴出土の種子

⑥　井戸出土の牛骨の分析…奈良国立文化財研究所　松井章
　鹿田遺跡第５次調査：中世井戸出土の牛の頭骨

⑦　放射性炭素年代測定…学習院大学理学部教授　木崎邦彦
　津島岡大遺跡第８次調査：縄文時代後期の土壙

3　刊行物

①　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第８号　　1992年８月発行

② 岡山大学構内遺跡調査研究年報　第９号　1992年12月発行
③ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第９号　1993年３月発行
④ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第６冊　1993年３月発行
※なお，1991年までの刊行物については附表３・４にて挙げている。

4　調査員の活動

(1)　資料収集活動

阿部芳郎

中部瀬戸内における縄文時代後期土器の実査：福山市教育委員会，広島県立博物館，岡山県立博物館，倉敷考古館，古代吉備文化財センター

西南四国における縄文時代後期土器の実査:高知県埋蔵文化財センター,御荘町教育委員会

縄文時代後期の竪穴住居模型の設計と展示計画：山梨県富士吉田市歴史民俗博物館

縄文土器の製作技術の分析方法について（ソフトＸ線撮影と粒度分析について）：㈶山梨文化財研究所

神奈川県綾瀬市兵衛谷遺跡発掘調査参加（学術調査）

土井基司

種子鑑定資料返却：大阪市自然史博物館

富樫孝志

縄文時代後・晩期石器の実査：福山市教育委員会，倉敷考古館等

石灰岩地帯における遺跡，及び第四紀哺乳類動物化石産出地点の調査：岡山県阿哲台，岐阜県熊石洞

松木武彦

古墳時代の武器武具資料の実査：京都大学文学部博物館

山本悦世

南西四国の縄文後期土器の資料収集

(2)　学会・研究会等参加

阿部芳郎

考古学研究会総会（４月）

土井基司

考古学研究会総会（４月），日本考古学協会（10月），埋蔵文化財研究会（２月）

富樫孝志

考古学研究会総会（４月），中四国旧石器文化談話会（９月），世界考古学会議中間会議（１月）

松木武彦

考古学研究会総会（４月），日本考古学協会（10月），埋蔵文化財研究会（２月）

山本悦世

考古学研究会総会（４月），第６回九州・釜山考古学共同研究会（７月）

(3) 研究発表他

阿部芳郎

「厚手式から薄手式への変遷―後期的土器生産体制の確立と技術変遷―」考古学研究会岡山例会

松木武彦

「中・四国地方における古墳出土武器武具の変遷」埋蔵文化財研究会

(4) 論文・資料報告他

阿部芳郎

「縄文時代早期における植物質食料加工用石器の在り方と生産活動―磨石，石皿多産遺跡の性格と生産活動の構成について―」『信濃』第44巻第９号

「上土棚遺跡出土の堀之内２式土器に関する所見」『上土棚遺跡（縄文時代編）』綾瀬市埋蔵文化財調査報告３

「上土棚遺跡出土の堀之内２式土器の器種とサイズ」同上

土井基司

「横穴式石室式石室から見た群集墳の諸相―博多湾周辺地域を中心に―」（『九州考古学』第67号

「須恵器」（近藤義郎編『吉備の考古学的研究』山陽新聞社）

富樫孝志

「相模野第Ⅳ期前半における集団関係の予察―茂呂系ナイフ形石器の検討から―」（『岡山大学構内遺跡調査研究年報９』）

松木武彦

「古墳時代前半期における武器・武具の革新とその評価―軍事組織の生成に関する一試考―」（『考古学研究』第39巻第１号）

「蓋形埴輪の型式と範型」（『究班』埋蔵文化財研究会15周年記念論文集）

「武器・武具」（福永伸哉編『雪野山古墳発掘調査概報』）

日本第四紀学会・小野昭・春成秀爾・小田静夫編『図解・日本の人類遺跡』東京大学出版会（共著）

山本悦世

「弥生時代のガラス」（近藤義郎編『吉備の考古学的研究』山陽新聞社）

「須恵器」（近藤義郎編『吉備の考古学的研究』山陽新聞社）

「吉備南部地域における古代末～中世の土師器の展開」（『中近世土器の基礎研究』Ⅷ日本中世土器研究会）

「吉備系土師器椀の成立と展開」（『鹿田遺跡３』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）

5　日誌抄

1992年

4月1日　年度始め打ち合わせ

4月27日　今年度の予算検討

4月28日　月例会議
今年度の活動計画

5月1日　木器処理室掃除

5月6日　運営委員会
1991年度事業報告，1992年度予算案
1992年度事業計画

5月7日　『津島岡大遺跡3』発送

5月19日　沖陽子氏に津島岡大遺跡第5次調査縄文後・晩期貯蔵穴出土種子の同定を依頼

5月25日　阿部，津島岡大遺跡第5次調査出土の縄文土器の粒径分析依頼のため，山梨文化財研究所へ出張

5月26日　管理委員会
昨年度決算，今年度予算について

6月7日　月例会議
報告書の作成進行状況，津島岡大遺跡第9次調査及び，臨時用務員の雇用について

6月10日　報告書の体裁に関する検討会

6月16日　津島岡大遺跡第11次調査の日数計算を企画課に提出

6月17日　1992年度調査のスライド報告会

7月1日　津島岡大遺跡第9次調査開始
現場で企画課，建築課と打ち合わせ

7月17日　月例会議

7月21日　木器処理準備開始

7月28日　岡山県立博物館に津島岡大遺跡第5次調査出土の縄文土器を貸し出す

8月13日　山本，土井，粉川昭平氏に津島岡大遺跡第6次調査縄文後期貯蔵穴出土の種子同定を依頼（大阪）。

8月21日　博物館実習開始受講生十数名　発掘作業と土器ラベリング，種子の選別を行う。

8月28日　博物館実習終了，木器処理，ＰＥＧ溶液の濃度を30％に上げる

9月14日　岡山県立博物館に貸し出していた縄文土器，返却される。

9月16日　月例会議

9月17日　阿部，富樫，資料見学のため倉敷考古館へ出張

9月29日　阿部，富樫，資料見学のため，福山市教育委員会へ出張

10月5日　木器処理，ＰＥＧ溶液の濃度を40％に上げる

10月8日　月例会議

10月23日　農学部実験農場の試掘調査について，企画課と打ち合わせ

11月6日　月例会議

11月9日　木器処理，ＰＥＧ溶液の濃度を50％に上げる

11月10日　阿部，富樫，山本，資料見学のため，愛媛県，高知県へ出張

12月7日　月例会議
調査補助員採用の検討

12月18日　木器処理，ＰＥＧ溶液の濃度を60％に上げる

12月21日　大掃除

12月24日　年報9発送

12月28日　御用納め

1993年

1月4日　仕事初め

1月7日　月例会議

1月11日　企画課，建築課と津島岡大遺跡第10次調査の打ち合わせ

1月20日　運営委員会

1月23日　津島岡大遺跡第9次調査，現地説明会

1月29日　津島岡大遺跡第9次調査終了

2月1日　津島岡大遺跡第10次調査開始

2月25日　津島岡大遺跡第10次調査レベル測量

3月2日　月例会議

3月9日　木器処理，ＰＥＧ溶液の濃度を65％に上げる

6　1992年度までの遺物保管状況

(1)　遺物収蔵量（表２）

1993年３月31日における本センターの遺物収蔵量は，表２のようになっている。発掘調査では，津島岡大遺跡９次調査（工学部生体機能工学科棟）でコンテナ258箱分，同遺跡10次調査（保健管理センター）は1993年度に継続の調査であったが，約２ヶ月間の調査で３箱分の遺物が出土している。一方，試掘・立会調査では，試掘調査がなかったことや立会調査がほとんど造成土内で終ったことから遺物は非常に僅少で，昨年度の遺物量と大きな差はない。以上の結果，総箱数は1557.3箱となった。

箱の容量は約30ℓを目安としている。また，木器の中で大型水槽に保管のものについては１箱に換算して計算している。

(2)　管理・保管施設

本センターの施設は，昨年度と変化はなく，鹿田地区では旧混合病棟東にある旧管理棟２階の一室に連絡所が，そして，津島地区では管理棟・収蔵棟・木製品保存処理棟がある。収蔵棟では，遺物の整理・保管，器材の保管などを行っているが，そのほかに簡易ではあるが，遺物展示室や写真撮影室も設置している。また，年度末には，事務局第二会議室内に展示ケースが設置され，これまで鹿田・津島両キャンパス内から出土した遺物，あるいは発掘調査終了直後の遺物などを中心とした常設展示を行っている。

(3)　遺物の保存処理

本学内の遺跡からは多数の木製品が良好な保存状態で出土することが多い。資料価値の高いこうした木製品は，出土直後から腐敗・劣化が急速に進む危険性をもつため，一刻も早い恒久的保存処理が必要である。1991年度からようやくそれに向けての具体的計画が可能となり，専門的な外部機関に委託するものと本センターで独自に行うものとに分け，それぞれで処理を行った。

ａ．外部委託分

本センターで対応できないと判断されるものを選択している。1991年度・1992年度の２カ年計画で元興寺保存科学研究所に委託し，1992年度末に全てを完了し返却された。処理方法は木製品に応じて PEG 含浸法とアルコール・キシレン法とが使い分けられている。

ｂ．本センターでの保存処理

木製品の種類・材質等の状況や処理方法の検討から，センターにおいても保存処理が可能であると判断されるものについて行った。昨年度に完成した PEG 含浸装置を使用して，７月下旬から処理を開始した。PEG 濃度は20％から始め，12月までの５ヶ月間は原則として約１ヶ月ごとに濃度を10％あげることとし，12月中旬には60％に達した。その後３月までは発掘調査の

切迫から，そのままの状態が続き，３月中旬に65％濃度をあげた。この段階以後は，溶液の濃度がやや高くなってきたことから，慎重を期して，１カ月の濃度上昇を５％に下げることとした。処理に当たっては基準資料を同時につけ込み，切片観察による浸透度の状態や重量変化を確認しつつ行っている。最終的には1993年12月頃に処理を完了する予定である。　　（山本）

表２　埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要

所属	種類	地区 調査名称	箱数（１箱：約30ｌ）						備考 主要時期・特殊遺物	文献
			総数	土器	石器	木器	その他	サンプル		
医病	発掘	鹿田１次調査（外来診療棟）	608	491	6	60	1 ガラス 鉄器 銅鏃 他	50	弥生中期～中・近世 短甲状・櫂状木器等	⑦
〃	〃	鹿田２次調査（ＮＭＲ－ＣＴ室）	116	90	3	20		3	弥生後期～中世，田舟・木簡等	〃
医短	〃	鹿田３次調査（校舎）	131	36		90		5	古代～中世	⑩
〃	〃	鹿田４次調査（配管）	3	2				1	古代，鹿角製品	〃
医病	〃	鹿田５次調査（管理棟）	119	79	1	20		19	弥生後期～中・近世	㉔
ＲＩ	〃	鹿田６次調査 （アイソトープ総合センター）	30	29.5	0.5				中世，青銅製椀	⑱
全	〃	津島岡大１次調査（ＮＰ－１）	4			4			弥生中期～古代	③
農	〃	津島岡大２次調査 合併処理槽 排水管	18	7 6	1			4	縄文晩期～弥生前期	④
学生	〃	津島岡大３次調査（男子学生寮）	71	49	10	2		10	縄文後期～弥生，古代～近世 石製指輪，蛇頭状土器片	⑲
〃	〃	津島岡大４次調査（屋内運動場）	1	1					縄文晩期～弥生前期 ＜試掘調査遺物を含む＞	⑥
大自	〃	津島岡大５次調査 （自然科学研究科棟）	89	55	2			32	縄文後期～弥生，古代～近世 耳栓・木製櫛（縄文）	⑪
工	〃	津島岡大６次調査 （生物応用工学科棟）	63	30	1	22		10	縄文後期～近世 人形木器，アンペラ	〃
〃	〃	津島岡大７次調査 （情報工学科棟）	13	7	1			5	縄文後期～近世	〃
全	〃	津島岡大８次調査（遺伝子実験）	14	12.9	0.1			1	縄文後期～近世	㉑
工	〃	津島岡大９次調査 （生体機能工学）	258	35		3		220	縄文後期～近世	㉕
〃	〃	津島岡大10次調査 （保健管理センター）	3	3					弥生前期～近世	〃

所属	種類	地区 調査名称	箱数（1箱：約30l）						備考 主要時期・特殊遺物	文献
			総数	土器	石器	木器	その他	サンプル		
医病	試掘	鹿田 駐車場	1	1					弥生～中世	⑤
学生 教育	〃 〃	津島北 男子学生寮 〃 研究棟	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生前期	〃
大自	〃	〃 自然科学研究科棟	1	1					縄文後期～弥生前期	⑥
事	試掘	津島 外国人宿舎（土生）	1	1					縄文～中世	⑧
理	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					中・近世	〃
教養	〃	津島南 〃	0.7	0.7					縄文・中世	〃
工	〃	津島北 校舎	1	1					縄文～近世	⑪
農薬	〃	津島南 動物・遺伝子実験施設	0.7	0.7					縄文～弥生，中・近世	〃
事	試掘	津島南 国際交流会館	0.3	0.3					中世	〃
大自	〃	津島北 合併処理槽	0.2	0.2					中・近世	⑭
学生	〃	津島南 学生合宿所	0.4	0.2				0.2	中世	〃
教育	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					縄文	〃
図	〃	〃 図書館	0.8	0.8					古墳～中世	〃
学生	〃	津島南 学生合宿所ポンプ槽	0.4	0.4					縄文～中世	⑱
資生	〃	倉敷 資源生物科学研究所	0.1	0.1					近世	〃
RI	〃	鹿田 アイソトープ総合センター	1	1					中世～近世	〃
事	〃	津島北 福利厚生施設	0.5	0.5					弥生？～中世	〃
全	立会	'83年度	2	2					分銅形土製品	①
〃	〃	'84年度	1	1						②
〃	〃	'85年度	1	1						⑤
〃	〃	'86年度	0.5	0.5						⑥
〃	〃	'87年度	0.5	0.5						⑧
	分布	'89年度 三朝・本島	0.3	0.3						⑭
全	立会	'91年度 '92年度	0.3	0.3						㉑ ㉕
総箱数			1557.3	949.2	25.9	221	1	360.2		

※文献番号は附表3，4に対応する。文献㉕は本年報10を指す。

第３章　1992年度活動のまとめ

本年度は稲田孝司センター長以下，助手５名，技術補佐員１名の体制で臨んだ。

発掘調査は，津島地区で２件行った。津島岡大遺跡第９次調査は，第６・７次調査地点に近接した地点で行い，縄文時代後期から中世にいたる成果があった。縄文時代後期の貯蔵穴の構造，弥生時代から明治時代に至る耕地区画法の変遷，条里に関わると考えられる大溝とその構造，改修などといった，土地の利用法に関わる成果があり，出土遺物によってそれらの時期を克明に追求できたことは大きな成果であろう。

津島岡大遺跡第10次調査は調査を開始して間もないため，まだ大きな成果はあがっていないが，微高地の高い部分にあたっており，また，先行トレンチからは多量の弥生土器，土師器が出土していることから，多くの遺構の存在が予想され，来年度には大きな成果が期待できる。

立会調査は随時行い，津島岡大遺跡，鹿田遺跡各地点の土層堆積状況の資料の蓄積ができた。本年度も手続き上のトラブルの防止につとめ，大学構内の工事等に伴う掘削に関する依頼文書を関係各所に配布し，理解と協力を求めた。

室内作業では，鹿田遺跡第５次調査の報告書『鹿田遺跡３』を刊行することができた。調査地点は，第１次調査地点に隣接する地点で，弥生時代から中世にかけての集落跡の調査報告である。牛の頭骨を出土した井戸は，井戸祭祀を復元するにあたって貴重な資料となろう。また，弥生土器，中世土師器は，編年はもとより土器の生産体制といった，当時の社会の復元に有効な資料である。この他に年報９，センター報８，９号の定期刊行物は従来通り刊行できた。センター報は各編集担当者の創意工夫により，各号でオリジナリティーが発揮され，内容の濃いものとすることができた。整理作業は，主として津島岡大遺跡第５～７次調査の遺物整理等を行った。そして，縄文時代後期土器群などでは，当初の予想を越える資料的価値が明らかになりつつある。

昨年度開始した木器処理は，今年度，順調に PEG 溶液の濃度を上げ，今年度末までに65％に達している。

啓蒙活動では，その一環として事務局第１会議室に簡易ながらも展示ケースを設置することができた。現在は発掘調査，室内整理に重点をおいているため，大がかりな啓蒙活動はできていないが，細々とながらもこうした活動を通じて埋蔵文化財に対する理解を求めていく必要がある。

今年度は各職員の連携のもとに，発掘調査と室内整理ともに順調に進めることができた１年であった。

（富樫）